

2024 年 10 月 24 日

2024 年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 一般社団法人ひいらぎ

ホーム名 ひいらぎ

代表者・役職名 氏名 代表理事 池田千晶

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

みんなで一泊旅行

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2022年7月開設。定員6名の男子のみのホームです。ともにスタッフ経験者である代表とホーム長が中心となり、当時、自立援助ホームがなかった県庁所在地の高松市に開設しました。通勤・通学の利便性を重視し、公共交通機関の利用にも便利な場所を選び、社員寮だったゆったり広い建物を活用しています。常勤スタッフ3名、非常勤・夜間ボランティアスタッフ7名、多様な大人が関わっています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

入居している子どもたちの多くは、家族旅行や修学旅行の経験がありません。就労や就学に毎日の積み重ねが必要なのはもちろんですが、余暇を上手に過ごして自分の時間を楽しむことにも経験や学習が必要です。非日常を楽しみ、見聞を広め、子ども時代を取り戻すような新しい思い出を作って、これからの励みにしてもらいたいと考えて、この旅行を企画しました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

入居者6名と職員4名で大阪方面への一泊旅行を実施しました。当初は公共交通機関を利用する予定でしたが、入居者が増えたため、車での移動に変更しました。1日目は予定通りユニバーサルスタジオジャパンで過ごし、ホテルで宿泊しました。2日目は吉本新喜劇鑑賞の予定でしたが、希望時間のチケットが取れなかったことと、参加者の希望がさまざまだったため、グループ別の自由行動に変更しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

- ・ゆったりした日程で、思い思いの過ごし方で旅行を存分に楽しみました。
- ・普段の生活とは違う状況の中で、それぞれの個性が見えて互いに理解を深めることができました。意外な興味がわかったり、新たな課題が見えてきたところもありました。
- ・入居者それぞれが行きたい場所など希望を出し、お互いに話し合って楽しむという経験ができました。
- ・共通の思い出と話題ができ、和やかな会話が増えました。
- ・目の前の日常生活だけにとらわれず、今後も楽しいイベントを実施するという共通の目標の土台ができました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

開設から2年あまりが過ぎ、ようやく大きなイベントを行うことができました。仕事や学校がうまくいくようになると、生きていくのにそれだけでは足りないということがよく見えてきます。視野を広げ、生活を楽しむ感覚を知ること、ひとりひとりの長い人生を支えるために大切です。旅行も含めて、そのきっかけになるような活動を折々に実施したいと考えています。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

